

12月の強調月間 -
キリスト教強調と国際兄弟クラブ

他者に幸せを与えることは、 偉大な慈善行為です

この季節になると、私たちは、与える事を祝い、神がその愛するひとり子を私たちに与えてくださり、その方を信じる者は、永遠の命を得るという最大の贈り物の行為を思い出します。ワイズメンズクラブ国際協会は、この偉大な贈与の行為を継続し、祝うための素晴らしい機会を提供してくれています。それは、すべての区が心からその行為していると誇りを持って申し上げます。贈与は感謝の行為でもあります。「感謝」という言葉は、深い精神性を持った心の状態を表す美しい言葉です。それは、人を惹きつける魅力でその人の人格を高め、無限の知性の力と美への扉を開くマスターキーでもあるのです。

この数ヶ月の間に、ワイズメンズクラブ国際協会が機能するための柱であるべき、感謝と礼儀の精神に反する行為を目撃したことを、私は重い気持ちで付け加えなければなりません。ワイズメンズクラブ国際協会の憲法、つまり私たちの運動の土台となる部分に反するような事例が目につくのです。一方では、慈善活動やイメージアップのための素晴らしい活動を誠実にやっているのに、他方では、エゴのぶつかり合いが見られるのです。組織を成長させるために、リーダーは、自己を捨て、新しいアイデアを奨励し、運動を進化させる必要があります。虚栄心やエゴは、私たちが捨て去るべきものです。なぜなら、私たちの地上での人生は、非常にはかないもので、私たちが持つていくものは何もなく、私たちが残すものは美しい思い出だけであるべきだからです。虚栄心は空虚であり、旧約聖書の「コヘレトの言葉」によれば、「風を追うもの」に過ぎないのです。

だから、私たちは互いの違いを捨て、力を合わせましょう。自分のために働くのではなく、100周年を迎えるこの偉大な運動の発展のために働きましょう。この運動を発展させてきた慈愛と親睦の偉大な精神を続けていこうではありませんか。

ラルフ・ウォルドー・エマーソンは、次のことを思い起こさせてくれます。

「人生の目的とは
幸福であることだけでない。
役に立つことである。
名誉であり、思いやりがあることだ。
自分が生きてきたこと、よく生きてきたことに違いがあることだ。」

クリスマスの素晴らし さと新年の幸福を祈りつつ





クリスマスは歌うこと



私にとって、クリスマスとは歌うことです。それは、私が子どもの頃に始まったことです。アドベントの期間中、クリスマス前の毎日、夕食の後、私たち4人の子供は、リビングルームに入り、アドベントキャンドルに火をつけ、母が弾くピアノの周りに自分の居場所を見つけ、何を歌いたいか考えました。一人一人が少なくとも一つの選択肢を持っていました。そして、できるだけ多くの歌を歌いたいのと思いました。それで、クリスマスが終わるまで、毎日歌っていました。家族の讃美歌集やYMCAの歌集から歌いました。そうやって一緒に歌うことで、クリスマスの準備をするのが好きだったのです。

でも、なぜクリスマスは歌うことなのでしょう。私たちがクリスマスの福音書に見出すシンプルで正しい答えは、次のようなものだと思います。

すると、突然、天の大軍が現れ、この天使と共に神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」（ルカ2、13-14）。

クリスマスにはたくさんの讃美歌やキャロルがありますが、いずれもクリスマスは、歌うことであることを確認し、クリスマスの福音に直接言及しています。私たち皆がクリスマスの準備をするときに歌うために、一つの例を挙げたいと思います。この曲の歌詞は、はるか昔の1739年にチャールズ・ウェスレーによって書かれ、メロディーは1840年にフェリックス・メンデルスゾーン-バルトルディという偉大な作曲家によって作られました。よく知られたクリスマスキャロルで、歌詞も曲も力強い讃美歌、Hark! the Herald Angels Sing（天には栄え）をご紹介します。

1. 聞け！ヘラルド・エンジェルの歌声。

「生まれたばかりの王に栄光あれ。
地上に平和を、そして慈悲を。
神と罪人の和解を。」
歓喜し、すべての汝の国は、上昇する。
空の勝利に参加せよ。
天使の群れとともに宣言せよ。
「キリストはバツレヘムに生まれた。」

くり返し

聞け。天使の歌声

「生まれたばかりの王に栄光あれ。」

2. キリストは天界で崇拜されている。

キリストは永遠の主である。
遅まきながら、彼が来るのを見よ。
処女の胎の産物。
汝の肉に包まれた神性を見よ。
受肉した神々に讃えあれ。
肉に宿り、わたしたちを喜ばせる。
イエスは私たちのエマニュエル

3. 平和の天の王子、万歳！

正義の太陽、万歳！
すべての人に光と命をもたらす。
癒しの翼を広げられ
その栄光の傍らには、穏やかな彼が横たわっている。
人がもう死ぬことがないように生まれ
地上の子らを育てるために生まれ
彼らに第二の誕生を与えるために生まれた。

4. 国の欲望よ、来たれ。

汝の謙虚な家を我らに定めよ。
甦れ、女の征服する種よ。
汝の中に蛇の頭を打て。
今、汝の救いの力を示せ。
汝の救いの力を見せよ、
汝の失われた自然を取り戻せ。
今、神秘的な結合で結合せよ。
汝は我らのものであり、我らは汝のものである。

5. アダムの似姿、主よ、消し去りたまえ。

その代わりにあなたの像を刻印したまえ。
上からの第二のアダム。
あなたの愛で私たちに復活させる。
失われつつあるあなたを取り戻そう。
汝、生命、内なる人。
ああ、すべての者に汝自身を授けよ。
信じる心の中に形づくられる

世界中のワイズメンがクリスマスに願うことは、私たちが本来の居場所を見つけ、キャンドルを灯して共に歌うことです。クリスマスは私たちの記憶の中で、心の中で、クラブライフの中で、運動の中で、そして私たちのキリスト教の強調の中で歌っているのですからね。2022年の喜びと希望と愛と平和に満ちたメリークリスマス。

カール・ハーツ・イエセン

キリスト教強調国際事業主任/地域事業主任 ワイズメンズクラブ国際協会チャプレン
ヴェイユトレカンテンワイズメンズクラブ デンマーク

国際本部ニュース2022年12月



国際本部からご挨拶申し上げます。大切な人たちに囲まれた楽しいホリデーシーズンをお過ごしください。12月はイエス・キリストの誕生月であるため、当然ながらキリスト教強調に焦点が当てられます。戦争や天災、人災による世界的な争いや、それぞれの個人的な不安はありますが、ホリデーシーズンは、平和と再生の時です。ご存じのように、ワイズメンズクラブ国際協会のエンブレムの金の星は、ベツレヘムの星を表すために付けられたもので、クリスマスの精神を、一年を通して持ち続けることを、すべてのクラブ会員に思い起こさせるものとなっています。私たちは、多様な世界に住んでいますが、残念ながら大きな不平等があります。しかし、現在「戦略2032」で強調されているように、公平で持続可能な世界を目指すことは、常にワイズメンズクラブ国際協会の目標となっています。1世紀以上にわたって、私たちのクラブは、貴重な社会奉仕活動を行い、貧しい人々や疎外された人々を助け、階級や人種、宗教に関係なく、機会均等な世界を目指してきました。

また、12月は**国際兄弟クラブ (IBC)** の強調月間でもあります。IBCのコンセプトは、75年前の1947年の第25回国際大会で初めて紹介されたことをご存じですか？親睦、国際理解、運動の連帯を深めるこのプログラムには、すべてのクラブが参加することが奨励されています。すべての関係は、最近更新されたIBC簿一覧に記録されています。[ウェブサイト](#)から簿一覧をご覧になり、必要な追加や変更をお知らせください。その他のニュースとして、国際選挙が2022年12月16日から2023年1月31日まで実施されることをお知らせします。選挙、候補者、投票に関する一般的な情報は、[ウェブサイトをご覧ください](#)。

クラブ、部、区の各レベルの会報ブリテン編集者の皆様には、[ブリテンやニュースレターのコピーをご提出いただくようお願いしています](#)。皆さんのコンテンツは、私たちの大きなストーリーの土台となる積み木のようなもので、私たちのグローバルなプレゼンスを代表するようなニュースを掲載することが重要なのです。

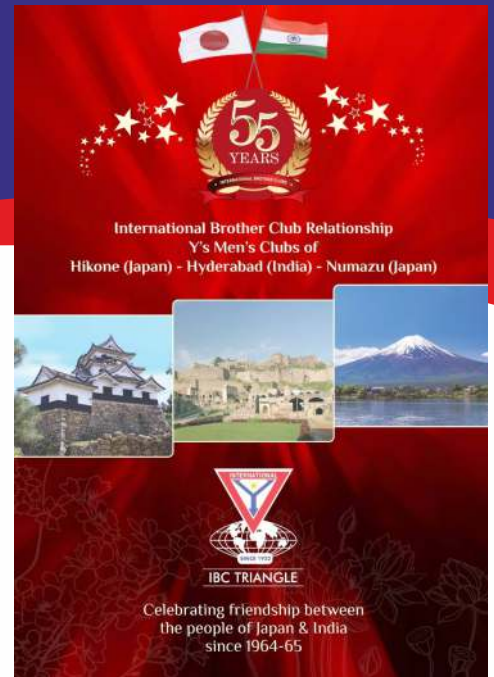
最後に、私たちの1世紀にわたる主要な個人、出来事、プロジェクトに焦点を当てた最初の遺産ストーリーを楽しんでいただけたでしょうか。「ワイズメンズクラブ国際協会インパクト」、「ワイズメンズクラブ国際協会レジェンド」、「ワイズメンズクラブ国際協会マイルストーン」という3つのカテゴリーに100の短い物語がまとめられています。ほぼ毎日、新しいストーリーがFacebookページで紹介され、新しいストーリーが公開されると、定期的に更新される[ウェブサイト](#)で[コレクションを閲覧することができます](#)。3月までに最後の100編をまとめ、台北で開催される国際協会100周年祝賀会で出版本として販売する予定です。

クリスマスおめでとうございます。そして、新しい年に、平和で健康で、そして幸福とともに、私たちのインパクトに火をつけるために、またお会いしましょう。



ジョース・ヴァルギース
国際書記長

真の国際理解のためのユニバーサル・ブラザーフッド



国際兄弟クラブ（IBC）プログラムは、普遍的な親睦、文化の向上、社会奉仕を促進し、多くのシニアクラブが長期的な関係を築き、IBCの銀婚式や金婚式の行事を共に祝うことができるようになりました。IBCは、私たちの運動の国際的な雰囲気を経験すると同時に、世界の他の地域に住む人々の異なる文化、美術、ライフスタイルを学ぶ最良の方法の一つです。ワイズ年度2022-23は、すべてのワイズメンバーにとって非常に特別な年です。なぜなら私たちの運動が100周年を迎えるからで、クラブがIBCプログラムに参加するのに理想的な100周年記念の間にIBC国際事業主任を務めるのは、私にとって光栄なことです。現在、IBCプログラムには、51カ国から432のクラブが参加しています。ブラザークラブ367組、トライアングルクラブ48組、クアドラングル（4角形）クラブ10組の計425組の関係が記録されています。ケーススタディ：ハイデラバード（インド）&彦根（日本）

彦根（西日本区）とハイデラバード（インド中央区）のワイズメンズクラブ間のIBCパートナーシップは、57年前の1965年に設立され、現在も続いています。1964年にハイデラバードYMCAの総主事であるD・S・チナドライ氏が来日し、彦根のワイズメンズクラブとYMCAのハッピー西森氏と友人になったことがきっかけで、このつながりが生まれました。このベテラン2人の主導により、両クラブのIBC関係は大きく花開いたのです。1969年、ハイデラバードのワイズメンズクラブが西森さんをインドに招き、スポンサーとなりました。1969年12月から1970年1月にかけて、西森さんはハイデラバードを訪れ、両クラブの親睦の絆を深めました。西森さんは、1、2ヶ月に一度、写真や記念品、ピンバッジなどを送ってくれ、会員間でオークションにかけられ、その収益がBF献金に充てられました。クリスマスや新年など、双方

からの挨拶は恒例でした。

1970年代、西森さんの死後、彦根のワイズメンズクラブは、元部長の島野義道さんの指揮のもとで発展しました。彦根からワイズメンバーとYMCA会員を率いてハイデラバードへ研修に行くのが恒例となりました。毎年12月には、彦根のワイズメンズクラブと滋賀YMCAのチームがハイデラバードのクラブを訪れ、新年を祝うとともに、大好評だった「日本に乾杯」プログラムなどのもてなしを受けていました。

1998年12月には、島野さんと安子夫人がハイデラバードクラブの40周年記念式典に主賓として招かれました。1958年にハイデラバードクラブの共同創設者であり、中央インド区のワイズメン運動の柱であったV・ナラシマ・ラオ元インド地域会長は、日本からの訪問団のホームステイやもてなしに尽力し、IBC関係の維持・発展に貢献しました。

私を含め、ハイデラバードのクラブメンバーも何度か日本を訪れています。彦根クラブの50周年記念式典では、ハイデラバードクラブのU・V・L・アナンダ元部長が招待され、彦根城博物館で「バラタナティヤム」の公演を行いました。

その後、ハイデラバードクラブは、沼津ワイズメンズクラブとIBC提携を結び、IBCトライアングルが完成しました。長谷川等さんを筆頭に、沼津の多くのワイズメンがハイデラバードに何度も足を運びました。彦根、ハイデラバード、沼津のワイズメンズクラブによるIBCトライアングルの関係が今も続いており、57年以上にわたってインドと日本の人々の間で続いていることは、大きな誇りです。

詳細については、ウェブサイトをご覧ください。



V・ヴィジャヤ・クマール
IBC国際事業主任



K・C・サミュエル国際会長のハイデ
ラバードワイズメンズクラブ訪問記



Y's Men Club of Mumbai
Bangalore District II, South Central India Region

Cordially invites you to Club Charter Ceremony, Induction of Club Members and Installation of Office Bearers of YMI Club of Mumbai Central.

Sponsoring Club - YMI Club of Mumbai

CHIEF GUEST

 INTERNATIONAL PRESIDENT YM HRM DR. K. C. SAMUEL	 Presiding Officer Ym Jason Samuel President - YMI Club of Mumbai	 Guest of Honor Ym M Sabastian International Service Director	 Guest of Honor Leonard Salins General Secretary- Bombay YMCA
 Charter President Jaime Colaco	 Charter Secretary Ansari Mohammed Ahmed	 Charter Treasurer Aspi Shapoorjee	

1st November, 2022, 08:00 PM
Venue : International House, Bombay YMCA, Mumbai Central

国際会長と国際事業主任マシュー・セ
バスチャンのムンバイYMCでの祝辞



ワイズメンズクラブ国際協会インパクト： シデルノ、イタリア － 制限のない遊び



ワイズメンズクラブ国際協会とシデルノYMCA（イタリア）の間には、誇り高い歴史があります。2018年にワイズメネットが支援した移民差別廃止のためのプロジェクトに続き、2020年の新しいプロジェクトのために12,600米ドルのタイムオブファスト基金を通じて、パートナーシップを継続できたことを嬉しく思っています。

「制限のない遊び」は、若者たちがスポーツという共通の舞台で一緒になることで、障がい者に対する思い込みや偏見を捨てさせることを目的としています。このプロジェクトの目標は、シデルノの若者の身体の健康を保つことです。この世代の座りがちなライフスタイルは、子どもたちの身体的健康にまで影響を及ぼし、心配な社会的ジレンマを作り出しています。

YMCAの伝統に則り、シデルノは「私たちの使命は、身体的、精神的、そして霊的な成長のために、安全で包括的な環境を提供することです」と宣言しています。

新型コロナウイルスの大流行とその後のロックダウンにより、当初の運営ガイドラインが変更になったにもかかわらず、シデルノYMCAは、適切でインパクトのあるプログラムを確実に実行するために、私たちのサポートによって、プロジェクトのパラメーターを調整しました。初期の段階ではオンラインアクティビティを取り入れ、規制が解除された後は、参加者をウイルスから守り、心配性の親を安心させるための予防策を講じるよう努力しました。プログラムは、さらに進化し、パンデミック関連のストレスに悩む幼児のためのメンタルヘルスサポートを取り入れました。

最新の進捗報告では、シデルノYMCAは「この困難な時期に若者を助け、支えるという主目的は達成された」と記しています。このプロジェクトは、現在、4歳から7歳の約150人の若者子どもたちの役に立っており、そのうち28人はダウン症、ADHD、自閉症、その他の精神的な問題を抱えています。そしてもちろん、このプロジェクトがシデルノとその周辺でその使命を果たし続ける中で、さらなる最新情報をお待ちしています。

マリオ・トリチーロ
地域事業主任バスケット シデルノYMCA

アフリカでの活動報告

8月27日、ナイジェリアのカドゥナにあるジョン・ウェズレー牧師記念会館で、アフリカ地域100周年記念講演会が開催されました。

100周年記念講演会のテーマは「加齢に伴う健康の秘訣」で、各界の要人が出席しました。

ゲストスピーカーは、ナイジェリアYMCA同盟直前会長のイスティファヌス・バラ・ボサン教授。ボサン教授は、医学博士で、カドナ州ザリアのシカにある名門アフマド・ベロ大学教育病院講師です。この講演会は、キム・サンチェ直前国際会長が設立した「世界を癒そう」プログラムを推進し、日々年を重ねる中で健康な生活への意識を高めるために開催されたものです。プログラムの冒頭で、地域会長のジャタウ・ヴィクター・ディリが、招待客にワイズメンズクラブ国際協会について説明する時間を設けました。

ボサン教授は、高齢者と呼ばれることのありがたさ、そして健康状態に気を配ることの大切さについて話しました。このイベントの結果、5人の新会員が登録されました。



ビクター・ジャタウ・B・ディリ
アフリカ地域会長



ガーナ部は3つのクラブと活気あるユースウィングで構成されています。YMCAのオフィスと施設は、ワイズメンズクラブがミーティングやトークショー、その他親睦を深めるためのプログラムなどに利用されています。YMCAセンターの正面には、ワイズメンズクラブ国際協会のガーナ部の若者たちによってペンキが塗られました。

また、一般市民を対象とした無料の眼科検診サービスなど、いくつかの取り組みも試み、多くの方に利用いただきました。朝は、プログラム開始前に朝食を、終了後は、昼食を提供しました。このプロジェクトの成功を神に感謝し、近い将来、農村部での伝道に乗り出す予定です。

ジョイス・マハマ ガーナ部部長

ウガンダ部の100周年記念行事は、2022年9月30日（金）にワニャンゲのジンジャ初等学校教師養成大学のグラウンドで行われたワイズメンズクラブ国際協会ネットボールガラで開催されました。参加したのは、3つの女子クラブと4つの男子クラブ、合計11の高等学校チームです。

このイベントは、オブワ・キャバジンガ（ブソガ王国）のスポーツ担当大臣であるダン・ムソタ、区理事であるキエンバ・モーゼス・ハニントン、部長であるジャスティン・ナブワイヤ、前部長のヒルダ・ナムトシとそして次期部長アンソニー・エゲサによって主催されました。また、他のワイズメンもこの機会を祝いました。

血液バンクは、ウガンダ赤十字と連携し、ウガンダ部との協力のもと、健康についての啓発活動を実施しました。大会期間中には、献血も実施されました。

このイベントのテーマである「ユースエンパワーメントと健康な身体」は実現されました。



ジャスティン・ナブワイヤ
ウガンダ部部長

クリスマスの物語

干し草でいっぱいの小さな部屋に
ロバや羊や牛に囲まれながら
悩んだり怖がったりしていた産婆は、ひざまずいて祈った。
鳩が何羽も鳴いている。
妊婦が暗い隅に横たわっている間。

若い女性は痛みと恐怖の中で嘆いている。
動物たちは彼女の泣き声に左右されずに移動する。
ゼベダイの妻は、もう少しだけ明るくなるようにと祈る。
困ったように、どうしようもなく、頭を振って、彼女はため息をついた。
この暗い夜には何が起こるのだろうか。

すると、屋根瓦越しに光の悲鳴が降り注ぐ。
奇妙な、大きな、そして鮮やかな太陽の光。
彼女は畏敬の念を抱きながら、陣痛の中で、この美しさを見つめる。
男子出産の幸せに安堵の涙を流す。
光に包まれた夜は、星の光で引き裂かれた。

30年後、彼女は、その子を見送る。
二人の盗賊の間に引き出され、釘で吊るされた。
痛みと血と恥と血で塗りつぶされた。
彼女はその子の母親として、自分のヨハネとヤコブのために泣いた。
その日、暗闇に包まれたエルサレムの幕が裂けた。

彼女は目撃した。
異なる場面から2人の子供が生まれ
一人は女の子、もう一人は神の子として。
天は、神の力を明らかにした
誕生と死を支配し、私たちに希望が生まれた。
昼が夜となり、夜が昼を現すときに。



ダン・トーマス

insearchofrhyme.blogspot.com



国際会長ニュース2022-23の編集長、デザイン、翻訳チーム

素敵なクリスマスと新年をお迎えください。

良い記事、ニュース、プロジェクトの写真などをお持ちの方は、編集部までご連絡

ください。編集部 (ysmipnews@gmail.com) までご連絡ください。

2023年1月の強調月間は、
エンダウメント基金

翻訳 田尻忠邦
校閲 田中博之